

第48回 SSN 勉強会

「東大緑地植物実験所見学」 & 「雨の日に室内で観察する手法を考える」

水越芳江（香取市）

日 時：2010年8月5日（木）9時40分～15時

講 師：午前 山田益弘さん、河添寿子さん 午後 山田益弘さん（SSN 担当）

場 所：東京大学大学院農学生命科学研究科附属緑地植物実験所（千葉市花見川区）
千葉市花園公民館

参加者：大山、小川、勝野、河添、斎藤（清）、佐口、佐藤（一）、高橋（節）、高山、
田中（裕）、晝間、堀、松川、松本（美）、水越、盛一、八木、山田（益） 18名

連日の猛暑の中、参加者18名でSSNの勉強会が行われました。SSN（小学校支援ネットワーク）は、昨年で10年目、年間72件の自然観察会を支援し、今年は今回で48回目の勉強会になります。私は初参加でしたので、学ぶことがとても多かったです。

午前中は東大緑地植物実験所において、多種類のハスや樹木を観察しました。2班に分かれ、私は初心者の多い河添さんのグループに入りました。2000年前のハスとして有名な大賀ハスがこの近くで発見され、保存されていることにまず驚きました。花はすでに終わっていましたが、他の観賞用のハスが美しく咲いており、河添さんからハスの葉や葉柄、花、実などの観察の仕方を学びました。歩きながら園の中の樹木にも目を向け、アオギリ、キササゲ、ドイツウヒなどの木の実、興味深いものがありました。また、歩きながらカップと紙を使ってオンブバッタを捕まえたり、アオイの花びらを切って顔に付けたり、遊び心も大切なことも教えていただきました。

午後は花園公民館に移動し、昼食を食べながら自己紹介をした後、「雨の日に室内で観察する手法を考える」と題し、山田さんが担当されて話し合いました。雨の日バージョンの難しさは、参加しない子も出るなどいろいろありますが、指導員は先生との打ち合わせをし、校庭の木、花、鳥など何をテーマにするかを決めます。下調べと準備が大切とのことでした。そのため楽しくやる工夫とアイデアが出されました。最後に河添さんが、子供たちは実物の標本を見せたり、前もって準備した木の実、葉、茎などを使って遊んだりすると時間がすぐ経ちますからとおっしゃって、私達にもいろいろ披露してくださいました。カラスとスズメの頭や足の骨、ヒヨドリ、カワラヒワ、メジロ、シジュウカラなどの鳥の巣、アシナガバチ、トックリバチなどのハチの巣の標本は見やすく、さすがと思いました。さらに、クズの葉を使ったお面、その柄を使ってムカデを編むとか、マテバシイの青い実でコマを作ったり、カヤツリグサで遊んだり工夫することで、雨の日でも観察会を開けることを教えて下さいました。そのため準備は大変だったと思いますが、とても参考になりました。

自然に親しむことが少なくなった今の時代、自然から学ぶことは沢山あります。子供達とも触れ合えるSSNの活動に、今後は何かお手伝いできればと思っています。ありがとうございました。

